

《 ヒートアイランド / 熱中症予防 に関わる提案 》

現在、大阪府下の小学校においては百葉箱が活用されていません。

約1,100校ある小学校の中から地域性を基に選定した学校にWBGT(熱中症予防 / 暑さ指数)センサを設置し、一元管理、監視すれば府下の環境把握や地域環境教材に利用でき、且つ、特に夏場は熱中症予防の注意喚起に活用できます。



小学校の百葉箱に(または代わりとして)WBGTセンサを設置し、測定したデータは管理者へ送信する。

測定データ(気温、WBGT:暑さ指数)の取得を希望する登録者へデータをメール配信したり、Webシステムを構築すればアクセス者が自由にデータを取得できる。

気温と湿度を測る温湿度センサ

輻射熱を測る黒球温度計



測定現場(学校)での環境教育、夏場は熱中症予防の注意喚起にも利用できる。

WBGT値、熱中症危険度、熱中症対策が記されている。

WBGT(暑さ指数)センサと表示器



熱中症予防パネル



測定したWBGT(暑さ指数)値とミスト噴射装置を連動させ暑熱環境を和らげる。



屋内の場合、WBGT測定に加えてCO2濃度を計測し、換気装置と連動し、効果的・効率的な換気を行う。生活空間の快適度アップ、省エネルギー(CO2削減)推進が行える



← CO₂トランスミッタ